



店内に飾られている  
古い柱時計

ー 時計の修理は複雑そう  
ですが：

中林さん・・明治時代初期から大正時代にアメリカやドイツで作られた古い時計が市内にあって、今でも動き続けているんですよ。ぜんまいが終わりを迎える時に鳴る音を聞いて、壊れてしまったのではないかと不安に思う方もいらっしゃいます。お客様の中には、時計が唯一の財産という方もいて…。それこそ、百年もの間、その家のことを見てきて、歴史を刻んできた大切な時計なので、これからも動かし続けていきたいと思っています。

私は三代目として店に入る前、長岡市の時計の専門学校に通いました。そこでは中の仕組みを徹底的に勉強しましたね。卒業した後も3年半くらい市外の時計店で修業して、修理方法だけでなく、学校では学べない接客等も教わりました。

ー お店には眼鏡や補聴器、貴金属もたくさんありますね。

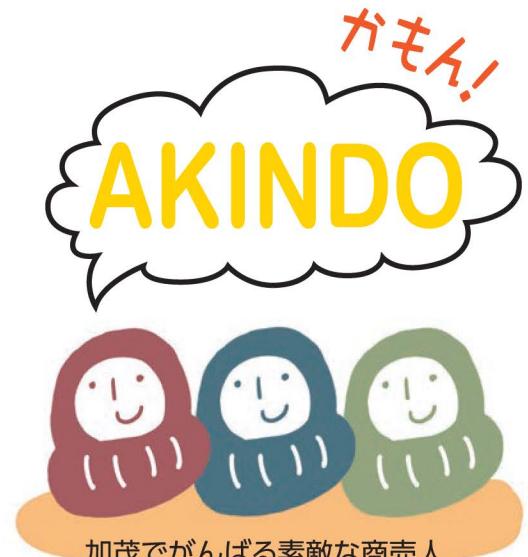
中林さん・・きっとあると計を飾っているお宅がまだまだあるかもしませんね。だから、自分が悪いのか分からぬと思いますよ。だから、何が原因で調子が悪いのか分からぬ時どうな修理が終わって動き出した時計をお客様のもとへ届けると、すごく喜ばれるんですね。やりがいを感じますね。あとね、自分は「時計をいじる」のがやっぱり好きなんだなあと改めを感じています。

## 中長時計店

住 所:加茂市穀町9-12  
TEL:0256(52)2966  
営業時間:10:00~18:30  
定休日:毎月6、16、26日



今回の AKINDO  
ねじ巻き屋 中長時計店  
店主 中林信夫さん



加茂でがんばる素敵な商売人(AKINDO)をご紹介します！

ー お店に入ると、古い柱時計が目を惹きますね。

中林さん・・珍しいと思う方も多いですよね。加茂は江戸時代から交通の要所として商業が栄えたまちで、明治時代になると資産家たちが揃って買い求めたのが高価な舶来の柱時計だったんです。素人がねじを巻いては大変だと「ねじ巻き屋」という珍しい商売が生まれたと祖父から聞いています。

ー ねじ巻き屋とは:どんなことをされているんですか?

ー 明治時代から約一二〇年も加茂の古時計を守り続けています。

中林さん・・古い時計が止まらないように、時計のねじを巻くんです。週に4~5日、百件以上のお客様の時計を見て回っています。この店は明治35年に祖父が創業し、当時から時計の販売や修理をやっていました。当時は、まだ日本で柱時計があり作られていないかったので、店に並ぶ柱時計を珍しそうに見に来る人が大勢いたそです。



中林さん・・古い時計が止まらないように、時計のねじを巻くんです。週に4~5日、百件以上のお客様の時計を見て回っています。この店は明治35年に祖父が創業し、当時から時計の販売や修理をやっていました。当時は、まだ日本で柱時計があり作られていないかったので、店に並ぶ柱時計を珍しそうに見に来る人が大勢いたそです。

